

症候学

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 田島 克巳 教授		
担当講座・学科（分野）	医学教育学分野、地域医療学分野 【講義日程上では各臨床科と記載】 消化器内科消化管分野、消化器内科肝臓分野、糖・代・内分泌内科分野、腎・高血圧内科分野、循環器内科分野、呼吸器内科分野、血液腫瘍内科分野、脳神経内科・老年科分野、外科学講座、脳神経外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座、整形外科科学講座、形成外科学講座、産婦人科学講座、小児科学講座、頭頸部外科学科、眼科学講座、皮膚科学講座、泌尿器科学講座、神経精神科学講座、放射線腫瘍学科、麻酔学講座、救急医学分野、臨床腫瘍学講座、臨床遺伝学科、緩和医療学科、		
担当教員	田島 克巳 教授、伊藤 智範 教授、相澤 純 特任講師 【講義日程上では各科担当教員と記載】 滝川 康裕 教授、板持 広明 教授、出口 博之 准教授、石川 健 准教授、田島 吾郎 特任准教授、兼平 貢 講師、石田 大 講師、小泉 淳一 講師、角田 加奈子 講師、徳富 智明 講師、石塚 直樹 講師、田中 三知子 講師、鴻巣 正史 講師、福本 健太郎 講師、梅邑 晃 講師、鳥谷 洋右 特任講師、及川 博文 特任講師、松浦 佑樹 助教、本間 博之 助教、新井 雪彦 助教、内海 裕 助教、及川 伸一 助教、岡野 良昭 助教、羽場 巖 助教、佐藤 正幸 助教、野村 順一 助教		
対象学年	5	区分	講義・実習
期間	前期	時間数	30.0時間

・学習方針（講義概要等）

臨床の場での患者診察では、愁訴を聞いた段階から鑑別診断を想定し、これまでに修得した医療面接、身体診察の手法から鑑別に必要な手法を選択し、実施できる能力が必要となる。これらの能力を駆使して得られた情報を整理し、鑑別すべき疾患を絞り込む能力を身につけ、今後の高次臨床実習（診療参加型臨床実習）で活用できるように、患者の愁訴から鑑別診断までの思考過程を確立する。

・教育成果（アウトカム）

症候学を通して、患者に起きている病態を把握し、鑑別すべき疾患を想定しながら医療面接・身体診察を行うことができるようになる。さらに、得られた情報を統合して鑑別診断ができるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 2、4、5、6 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	各症候の原因と病態生理を説明できる。
2	各症候をきたす疾患を列挙し、医療面接で聞き出すべき情報を整理できる。
3	医療面接で得た情報から鑑別疾患を抽出し、鑑別に必要な身体診察手技を列挙できる。
4	医療面接と身体所見の情報を統合して、鑑別診断ができる。
5	グループ内で、役割を決めて成果物（各症候に対する鑑別ポイントの一覧表）を作り上げることができる。
6	チームの和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。
7	プレゼンテーションソフトを使って、適切に発表できる。
8	臨床実習の態度に対する自己評価と高次臨床実習に向き合うべき姿勢について省察できる。

・講義場所

店舗棟3階講義室、矢巾附属病院5階SGL

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	目標番号
実習	6/21(月)	1	医学教育学分野	田島 克巳 教授	イントロダクション	2,3,4
実習	6/21(月)	2	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/21(月)	3	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/21(月)	4	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/22(火)	1	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/22(火)	2	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/22(火)	3	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/22(火)	4	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/23(水)	1	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/23(水)	2	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/23(水)	3	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/23(水)	4	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/24(木)	1	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/24(木)	2	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/24(木)	3	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/24(木)	4	各臨床科	各科担当教員	症候1-37	1,2,3,5,6
実習	6/25(金)	1	地域医療学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師	発表会	7
実習	6/25(金)	2	地域医療学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師	発表会	7
実習	6/25(金)	3	地域医療学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師	発表会	7
実習	6/25(金)	4	地域医療学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師	発表会	7

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	内科診断学 第3版	福井次矢ほか	医学書院	2016年

・成績評価方法

【総括評価】成果物評価5割、ピア評価2割、授業態度3割で合算し、100点満点となるようにし、60点以上を合格点とする。なお、成果物とは、症候一覧表のなかで担当する症候の表を完成させたもの、発表スライド、臨床実習に対する自己評価と高次臨床実習・post-CC OSCEに向けた改善のための具体的方策を800字以内にまとめたレポートを指す。授業態度はPBLへの積極的参加、チーム内での貢献度を評価する。

【形成評価】実習中のチームワーク、提出物の進捗状況・内容などで評価し、フィードバックを行う。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、SGL、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			